

善した。

炭酸リチウムについては内服者の12%に腎性尿崩症が発症するとの報告もあるが、多飲により脱水が代償されていることが多く、臨床場面では潜在化している可能性が指摘されている。水分制限で脱水症状を起こす危険性があるため、病的多飲水などの鑑別が重要であると考えられ、日常の飲水行動や尿量、血清ナトリウム値以外にも、血清カリウム、血清クロール値などに注意が必要と考えられた。また、腎性尿崩症が疑われた場合の対応や治療についても考察した。

9 「ストレス外来」における初診患者の受診状況

金安 亨太¹⁾・慶野鉄太郎²⁾・岡田奈緒子³⁾
 内田 訓⁴⁾・鈴木 康一⁵⁾・松田ひろし⁶⁾
 立川メディカルセンター悠遊健康村病院¹⁾
 帝京大学医学部付属病院²⁾
 立川メディカルセンター立川総合病院³⁾
 富士心身リハビリテーション研究所付属病院⁴⁾
 立川メディカルセンター米山爽風苑⁵⁾
 同 柏崎厚生病院⁶⁾

【はじめに】立川総合病院ストレス外来での診療動向について、これまでも当研究会において発表してきている。今回も平成19年における初診患者の動向についてご報告したい。

【方法】初回診察時における受診状況を前年までの状況と比較しながらまとめる。

【対象】2007年1月～12月と、2001年～2006年の初診患者の動向を比較する。

【結果】

- (1) 2007年の男女別の受診状況は、男性221名(41.1%)、女性317名(58.9%)。計538名。
- (2) 年齢別では10代46名(男：女=15：31)、20代81名(27：54)、30代106名(43：63)、40代66名(37：29)、50代65名(29：36)、60代65名(28：37)、70代71名(26：45)、80代3名(15：20)、90代3名(1：2)。

10代の受診が2001年より増加傾向にある(1.77倍)。

(3) 診療圏は受診患者の多い市町村順に、長岡市344名(63.9%)、見附市58名(10.8%)、三条市21名(3.9%)、十日町市18名(3.3%)、南魚沼市17名(3.3%)、小千谷市16名(3.0%)、柏崎市13名(2.4%)、魚沼市10名(1.9%)、他県内33名(6.1%)、県外8名(1.5%)と、中越地域が主となる。例年と比べ大きな変化はない。

(4) 中越地震以降、ストレス因として地震が挙げられる患者は途絶えていなかったが、2007年7月以降は中越沖地震がストレス因として挙げられている。

【まとめ】

- ・中越地震の影響として挙げられた受診患者の波は落ち着いている。
- ・2007年7月に起こった中越沖地震の影響は、中越地震時と比べ小さかった。
- ・2005年10月に外来枠が増え新患数が急増したが、今年はその影響も落ち着いた。

Ⅱ. 特別講演

医薬品の乱用・依存の実態とその治療について

国立精神・神経センター精神保健研究所
薬物依存研究部 部長

和田 清